

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2014.2.15 No.188 連絡先 FAX 042-555-1911



## 東京都知事選挙 宇都宮けんじさん 大健闘！

2月9日、投開票の東京都知事選挙は、大雪のなか投票率が46・14%に下がったもとの、宇都宮氏は前回知事選（2012年12月）の得票を上回る98万2594票（得票率20・18%）を獲得する大健闘でした。前回得票を1万3634票、得票率も5・14ポイントも上回りました。



当選した舛添氏は、自民党都連、公明党都本部の推薦を受け得票は、211万2979票で、得票率は43・40%でした。「自公が総力支援」（「読売」10日付）など、舛添氏支援に全力をあげましたが、得票は、昨年夏の参院選での自公両党の比例票248万票には及びませんでした。

元首相の細川氏は、脱原発を旗印に立候補。宇都宮さんに脱原発で一本化をと、細川氏側は、宇都宮さんに知名度がないから降りろと言わんばかりだったとか。細川氏の得票は宇都宮さんにおよびませんでした。宇都宮さん以外、まともな都政政策を語っていませんでした。

首都に外国の軍事基地があるのは日本だけ。静かな空を求めて訴訟を起こしている、第2次新横田基地公害訴訟原告団は主な候補者へ公開質問状を送りました。舛添氏も細川氏も答えられないと回答しています。宇都宮さんは航空機騒音が住民に被害を与えていること、訴訟のことも知っており、オスプレイの配備、飛来も認めない、横田基地の返還を求める、特定秘密保護法は廃止すべき、と明確に答えています。希望のもてる東京に、私たちもGO！

## 横田基地は現役の国連軍基地

横田基地には国連軍の後方司令部があり、常勤の要員として軍人3名・軍属1名が配置されています。また、国連軍参加国のうち8ヶ国の在日大使館付駐在武官が参加する合同会議が3ヶ月に1回程度の割合で開かれており、事実上の駐日武官の連絡詰所となっています。横田基地には日章旗、星条旗の他に、国連旗が常時掲揚されています。（右写真：米軍横田基地HPより）



ここで言う国連軍は、朝鮮戦争で北朝鮮・中国（・ソ連）と戦った国連軍です。国連安全保障理事会による決議に基づき、アメリカ、韓国、カナダ、イギリス、オーストラリア、フィリピン、ニュージーランドなど17カ国が参加した連合軍のこと。朝鮮戦争は現在も休戦状態であるため、活動を縮小していますが、再開されれば、日本との事前協議なしに自動的に国連軍の



基地としての機能が復活します。国連軍後方司令部は、かつてはキャンプ座間に設置されていましたが、2007年（平成19年）11月2日に横田基地に移転しました。

## ←北富士演習場 米軍実弾演習の写真

美しい富士山に既報の実弾射撃（米軍HPより）

## 在日米軍 05～13年 性犯罪 3分の2 留置せず 日本人女性も被害 (No. 188 裏面)

(2014年2月12日付しんぶん赤旗より) 米軍準機関紙「星条旗」(電子版)などによると、米AP通信社はこのほど、2005年から13年にかけて在日米軍が引き起こした性犯罪の記録を米情報自由法に基づいて入手しました。それによると、処罰を受けた244人の米兵のうち3分の2は留置されず、罰金や降格、除隊、さらに文書による注意といった甘い処分で済まされていることが分かりました。

米軍内では女性兵士などに対する性犯罪が急増しており、これまで公表された資料でも在日米軍基地での発生率が米本土より高いことが示されていました。今回、公開された記録で、その詳細な実態が初めて明らかになりました。

AP通信は、米4軍から得た記録約1000件のうち米海軍犯罪調査局(NCIS)が公開した約600件のファイル(計約1300ページ)を同社ウェブサイトで公表しました。

被害者と加害者の氏名は伏せられており、特定はできませんが、被害者の大部分は女性兵士と見られます。日本人女性が被害に遭ったと明記しているものや、日本の地元警察が捜査を行った事件も複数ありました。

事件が発生した基地や加害米兵の所属基地をみると、三沢(青森県)、横田(東京都)、横須賀(神奈川県)、厚木(同)、池子(同)、キャンプ富士(静岡県)、岩国(山口県)、佐世保(長崎県)、嘉手納(沖縄県)、キャンプ瑞慶覧(同)、さらに米原子力空母ジョージ・ワシントン艦内など、米海軍・海兵隊のほぼすべての主要基地で発生しています。ただ、性犯罪は米国でも親告罪であるため、ここに記録されている事件は氷山の一角でしかありません。

### 脱「専守」見据え? 試験 空自の指導書「ドクトリン」

(2月12日付東京新聞より引用要約) 航空自衛隊基本ドクトリンは、航空幕僚監部(空幕)が作成。「的確に行動するために準拠とすべき考え方」で、「全ての隊員が、理解し活用することによって、組織のさらなる精強화에まい進する」ための文書とされています。文書は、A4版で47ページ。

「武力紛争、軍事力及び航空戦力」、「我が国の防衛と航空防衛力」、「航空自衛隊の指揮と行動」の3章からなります。「よき服従者」であることを求め、「航空自衛隊魂」の紹介や、武力紛争で生まれる「恐怖心」に対し「打ち勝つ強い精神力を養うことが重要だ」と精神論も展開しています。「攻勢と防勢の利・不利」という項目では、攻撃の優位性を説く部分もあり、「専守防衛」の枠を超えているという指摘もあります。

航空自衛隊の心構えや行動指針を記した指導書「航空自衛隊基本ドクトリン」について、隊員に徹底するための筆記試験が、一部の部隊で始まるといいます。

筆記試験を実施するのは空自入間基地(埼玉県狭山市)に司令部がある中部航空警戒管制団(中警団)。隊員約2000人が所属しており、東北地方の南部から中国・四国地方の東部までの空域を監視する業務を担当しています。拠点は、御前崎(静岡県)や佐渡(新潟県)など約10カ所。

空自関係者によると、筆記試験は、来週(2月17日～)に実施する予定。幹部から一般の隊員まですべてが対象となります。拠点ごとの順位付けもします。出題は20問程度とされ、ドクトリンの内容から、空欄になっている部分を記述や選択して回答する形式。これまで、上司の問い掛けに対し口頭で回答する確認作業はありましたが、筆記試験は初めてだといっています。

